

コメント

1. ヘルパンギーナ

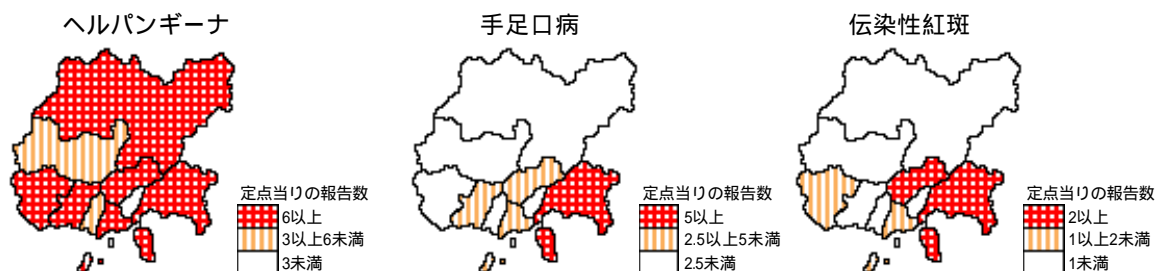
定点当り11.46人と先週よりやや減少しましたが、報告数の多い状態が続いています。特に安芸区31.00人、西区20.00人、東区13.33人となっています。

2. 手足口病

定点当り3.13人とやや増加を続けています。安芸区11.50人、西区4.67人、東区4.33人となっています。

3. 伝染性紅斑

2週続けてやや減少し、定点当り1.04人となっています。安芸区3.50人、東区2.00人、南区と佐伯区で1.67人となっています。



4 類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号	疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号
インフルエンザ	-	-	-		麻疹(注1)	7	0.29	0.08	
咽頭結膜熱	6	0.25	1.13		流行性耳下腺炎	25	1.04	0.58	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	0.96	0.92	→	急性出血性結膜炎	2	0.25	-	
感染性胃腸炎	41	1.71	2.29	→	流行性角結膜炎	12	1.50	2.13	
水痘	19	0.79	0.63	↓	急性脳炎(注2)	1	0.14	-	
手足口病	75	3.13	3.67	↗	細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	25	1.04	0.21	↘	無菌性髄膜炎	4	0.57	0.71	
突発性発疹	15	0.63	0.92		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	-	
百日咳	-	-	0.13		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	275	11.46	6.00	↗					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		殆ど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 成人麻疹を除く
(注2) 日本脳炎を除く
(注3) オウム病を除く

1 類～4 類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾病名	報告数	累積	備考
4	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	男性 56歳
4	後天性免疫不全症候群	1	2	男性 37歳

4 類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

			成人麻疹																				
			クラミジア肺炎 (注3)																				
			マイコプラズマ肺炎																				
			細菌性髄膜炎																				
			急性脳炎(注2)																				
			流行性角結膜炎																				
			急性出血性結膜炎																				
			流行性耳下腺炎																				
			麻疹(注1)																				
			ヘルパンギーナ																				
			風疹																				
			百日咳																				
			突発性発疹																				
			伝染性紅斑																				
			手足口病																				
			水痘																				
			感染性胃腸炎																				
			A群溶血性レンサ球菌咽頭炎																				
			咽頭結膜熱																				
			インフルエンザ																				
報告数	広島市	第26週	-	4	16	59	30	50	48	28	1	3	227	4	18	1	17	-	-	3	1	-	1
		第27週	-	2	21	40	39	62	35	16	-	-	334	4	28	-	16	-	-	4	2	-	-
		第28週	-	6	23	41	19	75	25	15	-	-	275	7	25	2	12	1	-	4	2	-	-
定点当り	広島市	第26週	-	0.17	0.67	2.46	1.25	2.08	2.00	1.17	0.04	0.13	9.46	0.17	0.75	0.13	2.13	-	-	0.43	0.14	-	0.14
		第27週	-	0.08	0.88	1.67	1.63	2.58	1.46	0.67	-	-	13.92	0.17	1.17	-	2.00	-	-	0.57	0.29	-	-
		第28週	-	0.25	0.96	1.71	0.79	3.13	1.04	0.63	-	-	11.46	0.29	1.04	0.25	1.50	0.14	-	0.57	0.29	-	-
	広島県	第26週	-	0.13	1.11	2.76	1.27	1.65	1.41	0.84	0.04	0.04	8.75	0.47	1.21	0.05	1.65	-	-	0.14	0.10	-	0.05
		第27週	-	0.25	0.97	2.59	1.49	1.77	0.93	0.91	0.03	0.01	11.28	0.33	1.29	0.05	1.70	-	-	0.19	0.14	-	-
		第28週	0.07	0.32	1.14	2.95	2.02	3.09	1.15	0.94	0.01	0.03	4.25	0.35	2.00	0.05	1.58	0.00	0.02	0.09	0.12	0.01	0.05
	全国	第27週	0.06	0.37	0.88	2.45	1.75	3.31	0.84	0.90	0.01	0.02	6.02	0.30	2.16	0.06	1.66	0.01	0.01	0.08	0.16	0.01	0.07

(注1)成人麻疹を除く (注2)日本脳炎を除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	住所	発症年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	2	男	安佐北区	2001/06/06	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
咽頭結膜熱、麻疹	4	女	東区	2001/05/18	咽頭拭い液	エコーウイルス11型
無菌性髄膜炎	6	男	東区	2001/04/14	髄液	コクサッキーA9型
扁桃炎	5	女	東区	2001/06/06	咽頭拭い液	エコーウイルス11型
滲出性扁桃炎	1	男	東区	2001/06/05	咽頭拭い液	アデノウイルス1型

(参考)

ヘルパンギーナ

主として咽頭、口腔内粘膜に水疱、潰瘍を形成するのが特徴の熱性疾患である。乳幼児に多く見られる夏かぜの代表的な疾患である。

病原体 :主としてコクサッキーA群ウイルス

潜伏期間 :2~ 7日

感染経路 :主として飛沫感染である。糞便中にもウイルスが排泄されるので経口感染も起こることもある。

症状 :突然の発熱(39 以上)、のどの痛み、飲み込むときののどの痛みがある。のどには赤い発疹がみられ、次に水疱となり、間もなく潰瘍となる。

罹患年齢 :4歳以下の乳幼児に多い。原因となる病原ウイルスが複数あるため、再発することもある。

予防方法 :一般的な予防方法の励行が大切である。

文部省 学校において予防すべき伝染病の解説(学校関係者用)(平成11年3月)から引用

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2001年第28週(7月9日~7月15日)